

# 茨城大学学報

第272号

平成19年4月～平成19年5月



図書館前

## INDEX

- ◆平成19年度茨城大学入学式
- ◆ピア（仲間）・サポート
- ◆新歓祭
- ◆「学技術政策の動き—阿部博之先生—」講演会
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより  
5月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

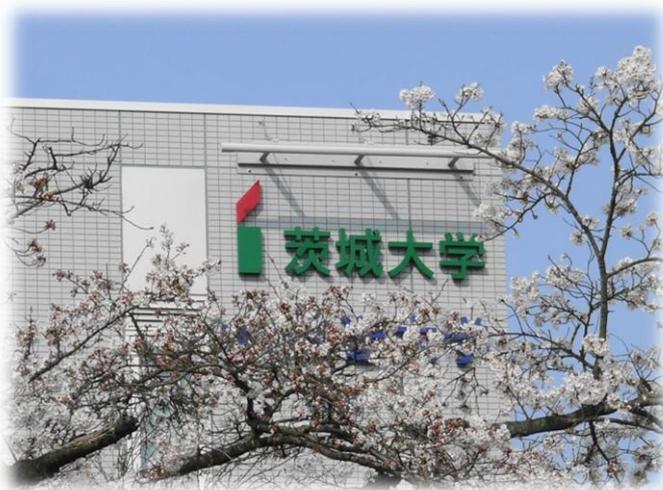
## 平成19年度茨城大学入学式

平成19年度入学式は、4月10日(火)午前10時から茨城県武道館において、学長、役員、部局長、評議員等の参列のもとに挙行されました。

式は、入学生とその保護者らが出席し、会場が満席のなか本学吹奏楽団による国歌吹奏に始まり、入学生紹介及び各学部等総代の宣誓書提出があり、続いて、菊池学長から学部、大学院及び専攻科の入学生と各学部編入学生の合計2,253名に対する入学許可、式辞、役員・部局長等の紹介がありました。更に、入学生総代 鎌田晴輝さん(工学部)の宣誓があり、参列者全員で校歌を斉唱して閉会となりました。

### ◇ 学長式辞

茨城大学学長 菊池 龍三郎



平成19年度茨城大学入学生のみなさん。入学本当におめでとうございます。本学を代表して心からお祝いを申し上げます。あたかも春がみなさんの入学を祝うかのように、例年より一足早く、桜が咲き、それに続いて芽吹き始めた木々の梢の浅黄色も爽やかな本日、平成19年度入学式を挙行し、みなさんを茨城大学にお迎えすることになりました。私たち教職員一同心から慶び、みなさんを歓迎致します。

ご承知のように、茨城大学は、今年で創立58周年を迎えます。5つの学部と各分野の専門の教育研究センター等を数多く擁する本学は、規模も大きく、優れたスタッフを多数擁し、教育と研究の両面で全国有数の地方国立大学であります。

この後、数日間にわたって、みなさんに対してはいろいろなガイダンスが予定されておりますので、本学のことについて、詳しくはその機会に知って戴きたいと思っておりますので、ここでは本学の特色についてのごく簡単な説明と、大学生活についてこれだけは注意してほしい、努力していただきたいといったことに限ってお話してみたいと思っております。

まず本学の教育についてお話ししてみますと、この後皆さんがすぐに履修に入られる教養教育では、幅広く豊かな市民的教養と社会性、そして健康づくりの基礎を培うための豊富なメニューが用意されています。この教養教育の豊かさこそ、まず茨城大学が、国立大学として、みなさんに誇れる大きな特色であります。国立大学の学生はどこが違うか、まず教養の広さと深さが違うことをみなさんに示していただきたいと思っています。

さらに外国語教育、とりわけ英語教育については、従来の「読む」だけの英語教育ではなく、「読む・聴く・話す・書く」の四つの分野の英語力をバランスよく育てるためのプログラムを実施しています。

国際化時代において、本学では、希望者を対象にして、交流協定を結んでいるアメリカ西海岸にあるイースタン・ワシントン大学に短期の語学研修も実施しております。またこの他にも、アジアを中心とするいくつかの国々の大学との間で、交流協定を結んでおり、この後先生方から色々な指導を受ける中で、みなさんに見聞を広めていただくための実際的な機会が今後どんどん出てくると思います。



本学は、教養教育から専門教育に至る四年一貫教育を実施しておりますが、それを裏付けるのが国立大学の長所である少人数教育であります。たとえば、本学と同じ教員数のある有名ないくつかの私立大学と比較すると、本学は5学部なのに対して、そこでは9学部とか10学部ということになり、それだけ私たちの大学は国立大学として少人数教育を実施していることがわかり頂けるかと思えます。この少人数教育等によって、教養教育から専門教育に至るまで、しっかりとした実力を身に付けて頂くことにより、必ずやみなさんの期待に応えることができると信じております。

次に、茨城大学の研究の状況についても簡単に紹介しておきます。本学では、文系・理系を問わず、沢山の先生方がおります。

その先生方は、しばしばテレビなどに出演して評判になったり、著書が出版文化賞を受賞したとか、研究が大きな賞を獲得したとか、国際的に注目されたり高い評価を受けている等の優れたスタッフを数多く擁しています。先生方ひとりひとりがみなさんに行う授業は、どれもが長年の研究に裏付けられたものであることから、楽しく、ためになり、みなさんの知的な関心を触発するとともに、必ずやみなさんに実力をつけてくれるはずですよ。

本学はこの3月までに既に約7万人以上の卒業生を各分野に輩出しています。全国有数の国立大学である茨城大学は、卒業生も色々な分野に進出し、大いに活躍していることを



みなさんに知って戴きたいと思えます。この数年をとってみても、卒業したみなさんの沢山の先輩は、私たちの期待に十分に答えてくれています。たとえばこの3月に卒業した先輩の中には、スポーツの分野で優れた成績を収めた方達が大勢いました。さらに就職面でも、昨年はNHKアナウンサーなどマスコミ界・放送界にも何人も進出を果たすなど、頑張った先輩がたくさん出ていることを知っておいて欲しいと思っています。

大学に入学し、みなさんはなんとなく独り立ちした気分とともに、一方では緊張感を持っておられることと思います。これから本学で過ごす4年間、大学院生でしたら2年間とか5年間ではありますが、みなさんに、大学で学ぶということについて少しお話をしておきたいと思います。



第一に、大学生活は本当にあつという間に過ぎてしまいます。「少年老い易く学成り難し」などと古い格言を持ち出して教訓めいたことを言うつもりはありませんが、それでも、大学生活は、漫然としていると、あつという間に終わってしまうことに注意してほしいと思います。それだけに、みなさんには、在学中に、思う存分、豊かな体験を色々やってみてほしいのです。というのは、特に青年期というのは、努力して充実した体験を積み重ねた人だけが、心と体にしっかりと時を刻むことができるからです。充実した多くの体験をした人は、卒業した時に、人間的に一回りも二回りも大きくなっていることは間違いありません。確かに、これまでは、勉学も特にするわけではない、クラブ活動などに打ち込むわけでもない、人と積極的に関わるわけでもない、何となく日を過ごしている、そのような送り方をしても、それでもそれなりに大学は卒業できた。しかし、それは青年期という大事な大事な時間の浪費でしかない、勿体ないと思うのです。もっと積極的な生活を送ってほしいのです。それには、本学での自分の目標を早めに見つけてください。そして目標に打ち込んでください。茨城大学は、これから、みなさんに目標への努力と没頭を求めたいと思います。

第二に、これから始まる勉学の仕方についてです。大学に入るとみなさんは、沢山の講義を聴いたり、実験や実習に参加します。沢山のレポートを書かされます。

私はもう6、7年前だったかに担当していたある授業で、次のような経験をしたことがあります。レポートを課し、全員がレポートを提出したのです。みなさんご承知のように、レポートにはどんな本や資料を参考にしたかを最後のところに載せることになっています。そうしたら、数人の学生が、読んだ本をあげるのではないのです。[A wide-angle photograph of a large lecture hall filled with students. They are seated in rows, facing a stage area where a presentation or lecture is likely taking place. The hall has a high ceiling with exposed beams and large windows on the right side.](http://www.云々となっているのです。お分かりですね。自分で本を探して読んだのではなくて、多分、インターネットのYahoo!か何かの検索欄に、私が出したテーマの中の言葉をいくつか放り込み、検索エンジンを使って出てきた文章などを、そのままダウンロードし、関係する部分をコピーし、レポートに貼り付けて持ってきたのです。私は思わず溜め息をつきました。そして、こんなのはレポートではない。自分で本を探して読んでほしいと言ったのです。</a></p></div><div data-bbox=)

しかし、その後私は、知人が書いた『インターネット完全活用術—大学生のためのレポート・論文術』という本を読んで、その考えをかなり改めました。インターネットはどんどん使ってもいい。全国の大学



図書館が電子図書館化し、IT化が益々私たちの学習環境を変えてきている現在、これはもう否定しようのない流れだとも思ったからです。しかし、それでもなお私は言いたいのです。単にインターネットを使って検索して何がしかの資料を見付け出し、ダウンロードし、必要部分をコピーしてレポートに貼り付ける、というだけの利用は、まだ学習とは言えないということです。学習のほんの一部に過ぎないことを知ってほしいのです。つまり、私が何を言いたいの

かはもうお分かりだと思います。第一に、インターネットを使うなら使うで、それだけで果たしてどこまで良いレポートが書けるか、ということに挑戦するくらいの気構えでやってほしいこと、単に関係する部分だけを楽しく探し、切り貼りしてレポートを書いてしまうといった中途半端な使い方ではなくて、使うならもっと徹底的に活用してほしいということです。第二に言いたいことは、その一方で、それでも私は、みなさんに、是非沢山本を読んでほしいという願いをもっています。いくらインターネットを活用しても、最終的には本を読み、本で確かめる作業がどうしても必要であり、それをしたかどうかで最後は決まると私は信じているからです。言い換えれば、インターネットだけに情報の蒐集を頼るのではなく、無限の知の宝庫である書物の世界にぜひ踏み込んでほしい、大学生であるみなさんにはこれまでの高校生の生活とは違う学び方をしてほしいということです。その場合、本学の図書館は膨大な図書資料を擁しています。ぜひ、これを利用してみてください。

第三に、本学での学習においては、ぜひ、「行動する知性」、言い換えれば社会を実際に皆さんの行動によって変えていく知性を培って戴きたいと思います。

一例を挙げます。一昨年、農学部の先生方と学生達が地域の方々と一緒になって頑張り、国の競争的資金のひとつである「現代GP」というものには選ばれました。これは、都市化が進み、都市周辺の田畑がどんどん耕作放棄地になってきている中で、その再生を図るとともに、地域を環境循環型の社会につくりかえようとする構想です。この事業は、話題を呼び、しばしばテレビや新聞などでも紹介されたのですが、私たちが誇りに思っているのは、この事業に農学部の学生達が大勢参加してくれていることです。大学で学んだことを、実地に生かすことが大事だと考えますが、これを「行動する知性」と呼びたいと思います。実際に農学部の学生だからといっても、卒業後の進路は農業とは限らず相当に離れていくかもしれません。それでも地域の農業と環境の改善計画に企画段階から参加し、さらに実践していく中で身に付く力は相当なものです。私たちがみなさんに身に付けてほしいのは、実に、このような実際に行動に結びつく知性であると考えています。

健康に十分に気を付け、生活全体のリズムを、学習を中心として組み立ててください。大学生活は、自由度が増す代わりにみなさんには自己管理の努力と能力が求められます。なぜ自己管理能力が大事かと言うと、いずれ社会に出て行ってからみなさんはこの自己管理能力があるかないかを験されるからです。



それから大事なことをもうひとつ。これからの大学生活の中では、大学生活に慣れないとか、自分の専攻分野に馴染めないとか、人間関係がうまくいかないとかの悩みなどが少なからず出てくるかもしれません。そうした時に、みなさんのどんな悩み、どんな相談事にも対応できる体制ができています。絶対に、自分ひとりだ、自分は孤独だなどと思込まないようにしてください。担任の先生や事務のスタッフにも遠慮なく気軽に声をかけてください。

みんな待っています。何よりも大学では心を許せる友だちをつくってください。友だちがひとりでもできたらもう大学生活は成功です。何事にも簡単に諦めたり投げ出したりしないで、みなさんが選んだこの茨城大学で最後まで頑張り続けてください。みんなで応援します。

それから、本日大勢ご出席いただいている保護者の皆さま方にも心からお祝いを申し上げたいと思います。国立大学法人化後4年目を迎え、私たちの茨城大学は、入学した学生をしっかりと丁寧な教育する大学、教職員と学生がともに希望を語れるような大学、卒業するときに、「茨城大学に入ってよかった」「茨城大学で学んでよかった」と評価して貰える大学を目指しております。そしてそのために教職員一同最大限の努力をしております。どうぞ、安心してお子さんを見守り励ましていただきたいと思います。

なお、保護者の皆さま方には、本日入学式終了後に保護者説明会を開き、そこで改めてお願い致しますが、今後ぜひ「茨城大学教育研究助成会」にご入会いただき、本学を様々な面からご支援いただければと思います。本日は会長さんにもご出席いただいておりますが、今後とも是非ともご支援、ご協力くださいますようお願い致します。

最後に新入生のみなさん、改めて入学おめでとう。これからのみなさんの健康と活躍を心から祈って式辞といたします。

## ◇ 「ピア（仲間）・サポート」

工学部では、4月3日～13日まで学部3年生以上による「ピア（仲間）・サポート」を初めて実施しました。

「ピア（仲間）・サポート」は、キャンパス内のことを熟知している在学生在が、サポーターとなり新たに工学部（日立キャンパス）に来た仲間（新入生、新2年生、編入学生）に対して、日立キャンパスライフを楽しんでもらう為に、キャンパス内の案内やサークル活動の紹介、大学付近のお店の紹介等様々な情報の提供を行いました。

サポーターの16名（男子13名・女子3名）は、全員がボランティアとして実施し、留学生2名を含む学部3年生から大学院2年生で構成されました。

サポーター達は、「楽しくやろう！」をモットーに案内所では、学生同士が終始和やかな雰囲気に対話し、コミュニケーションの場となりました。



ピア・サポート会場

## ◇ 新 歓 祭

平成 19 年 4 月 14 日（土）、水戸キャンパスにおいて平成 19 年度新歓祭を開催しました。新歓祭は、学友会が主催する新歓企画実行委員会の運営によって毎年開催されているもので、本年度は 72 団体が参加しました。

構内に設置された、趣向を凝らしたサークル紹介の看板が雰囲気盛り上げる中、バンドステージや路上パフォーマンス、体験コーナーなどに多数の新入生が興味を示していました。



キャンパス風景

## ◇ 「科学技術政策の動き－阿部博之先生－」講演会

本学では5月9日（水）、理学部インタビュースタジオにおいて、茨城県との共催で前総合科学技術会議常勤職員の阿部博之先生〔（独）科学技術振興機構顧問、元東北大学総長〕を講師に迎え、講演会（演題「科学技術政策の動き」）を開催しました。

講演では、科学技術基本法のもと、平成8年度から第1期、第2期、第3期と科学技術基本計画が閣議決定され、平成22年度までの基本計画が公表されているなか、特に第3期科学技術基本計画のとらえ方の説明があり、J-PARC等の多くの研究施設の立地がある茨城県の優位性について語られました。

講演会は、約40名の地元産業界等からの参加者を含め、会場に約100名が参加したほか、日立・阿見キャンパスへもテレビ会議システムで配信しました。

参加者は、2時間におよび熱心に耳を傾け、講演後には活発な意見交換も行われました。



講演いただいた阿部博之先生

## －「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 5月号－

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成19年5月17日(木)・・・茨城大学教育学部 情報文化課程 映像工房プロジェクトの  
活動紹介 (表現文化コース3年次 箭内聖司くん)

情報文化課程にはプロジェクト科目というものがあり、そこでは一年生から四年生までが織り交ざって活動しています。私達の映像工房プロジェクトには、アニメ班・ドラマ班・CMオムニバス班・ミュージッククリップ班・SF班・コメディ班があり、それぞれが映像作品を制作しています。今回はアニメ班とSF班の作品を紹介しました。どちらも前衛的な作品になっています。



写真は  
平野アナウンサーと  
映像工房プロジェクトの皆さん

NHK水戸放送局公開スタジオにて：

左から、平野アナ、村野さん、岡山くん、入江さん、折原くん、チャさん、中野さん、  
後列、横山くん、飯島くん、古川くん、山際くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。